

編集後記

看図作文・看図アプローチの広がる可能性

看図作文や看図アプローチは、授業づくりのための優れた方法です。どこがどのように優れているのかは、これまでに多くの著書や論文の中で述べてきました。また、実践に携わるたくさんの先生方が看図作文や看図アプローチの魅力を語ってくれています。研究誌6号に掲載された3つの論文は、看図作文・看図アプローチのさらなる可能性を広げてくれています。

教育方法としての継承可能性

茅野・時田論文は、2人の先生方の看図作文授業競演です。茅野先生は、すでに中学校教員をリタイアされた大ベテランです。対して、時田先生は、今年度採用されたばかりの新人です。茅野先生の指導をいただきながら、時田先生が生まれて初めて行った看図作文授業が茅野・時田論文の中で報告されています。時田実践でもうひとつ注目すべきは、看図作文の授業を一度も受けたことがない生徒たちが学習者になっている、ということです。時田実践は、看図作文は「いつでも、どこでも、だれとでも、だれでもできる」作文指導法であることを証明してくれています。また、茅野先生は、看図作文授業づくりのノウハウを若い世代の教員に見事に継承してくれています。

教育文化財としての継承可能性

2番目の石田論文は看図アプローチ実践の重要な成果を伝えています。写真をビジュアルテキストにした看図アプローチは、オンライン授業をすすめていくための効果的なツールになります。そのことを例証してくれています。石田論文は、さらにもうひとつ重要なことを伝えています。看図アプローチ研究会はこれまでに、たくさんのビジュアルテキストを制作してきました。石田論文では、鹿内他が美術学部の授業のために開発したビジュアルテキストを医療系学部の授業で用いています。石田実践は、看図アプローチ研究会が開発してきた多くのビジュアルテキストを教育文化財として活用していく可能性を示してくれています。

若い力が見つつけてくれた新しい可能性

本研究誌第3論文のファーストオーサーは美馬良哉さんです。美馬さんはまだ大学4年生です。美馬さんは、その若い力で、全国看図アプローチ研究会に新しい風を吹かせてくれました。美馬さんは「看図作文は、作文授業をユニバーサルデザイン化するための最良のツールではないか」という魅力的な仮説を掲げて私たちの前に登場しました。この仮説をきいて、石田ゆき先生がさっそく検証作業に取り掛かってくれました。分析の対象にしたのは、森寛先生と兒玉重嘉先生の看図作文授業です。森先生も兒玉先生も看図作文授業の第一人者です。分析の結果、「看図作文は作文の授業をユニバーサルデザイン化するための重要なツールになる」ということが確かめられました。これは、看図作文の可能性をさらに広げる大発見です。

全国看図アプローチ研究会の可能性

全国看図アプローチ研究会には、老壮青の各世代がバランスよく参加してくれています。多様な人材に支えられて、研究誌も継続的に公刊できています。研究誌公刊に関しては、石田ゆき編集長の尽力に負っているところがたくさんあります。たとえば、この6号では第2論文と第3論文は石田編集長が執筆したものです。第1論文の構成サポートも石田編集長がすべて引き受けてくれました。

本研究誌は1号から6号まで公刊されています。どの号もきれいにページデザインされ組版されています。これらは業者に委託したものではありません。すべて、石田編集長が、様々なアプリケーションソフトを駆使してDTPしてくれたものです。石田編集長は「全国看図アプローチ研究会」のアートスタッフという役割も担ってくれています。研究誌の表紙デザインは毎号変わっていますが、これも by yuki.ishida です。表紙デザインも鑑賞していただけましたら幸いです。

たくさんの才能に助けをいただいて、全国看図アプローチ研究会の可能性も次々と開けていっています。ほんとうにありがたいことです。

全国看図アプローチ研究会研究誌 6 号

発行年月日 2021年2月22日

編集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善*

萩尾耕太郎

山下雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

発行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com



事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき